

自己点検・自己評価

学校法人 森ノ宮医療学園 ランゲージスクール
校長 小山 正辰

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1.教育理念・目的等（小山）

評価

1	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	1-2 学校の特色は何か	5
3	1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4 理念に基づく教育が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

ランゲージスクールは、2021年よりウェルランゲージスクールへと移行すべく準備を進めている。
ランゲージスクール学生の多くはウェルランゲージスクールに進学するため、2020年度の理念・目的・育成人材像は、外国人がまず、日本語能力をN2程度まで伸長させるという目的に集約できる。
「介護福祉士国家資格」を取得するまでの学校として、「日本語」「日本文化」を学びながら、将来の職業選択（介護福祉士）にむかって学生の成長を支援するのが本校の存在価値である。
これが、本校の特色であり、将来構想であり、教職員が共有する理念となっている。

2.学校運営（小島）

評価

5	2-1 運営方針は定められているか	4
6	2-2 事業計画は定められているか	4
7	2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8	2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10	2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	2
11	2-7 危機管理体制は整備されているか	3
12	2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されて	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

毎年、運営方針、事業計画は定められ、理事会で承認を受けている。学内は、事務課、教務課があり、議案等については、事務課会議、教務課会議を経て、管理者会議で決定することで、運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっている。施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法だけでなく、日本語教育機関の告示基準に沿って整備されている。
また、人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度については、法人本部が整備している。
情報システム化等による業務の効率化、危機管理体制の整備は取り組んでいるものの、継続してレベルアップを行っていきたい。
学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能については、取り組みを検討中である。

3.教職員（評価：片山）		評価
13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
15	3-3 教職員評価を行っているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

日本語学科卒業後は介護福祉学科で介護福祉士の国家資格を取り、日本の高齢者施設で活躍する学生を育てるために必要な日本語力の習得を目指すという目的は教職員全員で共有できている。教育の質を向上させるため、授業前は教案作成等の相談、教案の確認を行い、非常勤講師を含め8月より2カ月に1度教員の勉強会を開催した。また、教職員間の授業見学を定期的実施し指導力の底上げを図った。

4.教育活動（評価：片山）		評価
16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	5
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	4
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

2年あるいは1年半でN2合格を目指すカリキュラムを初年度より進めてきた。JLPTの合格率をあげるため恒常的に週1日のペースでJLPT対策の授業を取り入れ、宿題として各科目の課題をGoogleで与え、全問正解するまで問題を解かせた。また、試験直前にはJLPT対策週間を2週間設け、2カ月前から問題集を使用した模擬テストを実施した。模試の成績が悪い学生には補講を実施した。合格状況は全国平均並みのため、2021年度からはカリキュラムを見直し全体の認定率向上を目指していく。また授業評価については年2回、非常勤講師を含めた全教員の授業について、学生にアンケートを実施し、授業満足度を調査した。アンケート結果に基づきリフレクションシートを作成し理事面談を行った。今後も教員研修や教職員間の授業見学を通し、教員全体の指導力の向上を目指す。

5.学生支援（森川）		評価
21	5-1 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
22	5-2 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
23	5-3 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	3
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	2

<現状・具体的な取り組み/課題>

学生相談・健康相談は学校の開いている時間の他、教務課・事務課専用携帯電話にて常時相談を受け付けており、必要に応じて住まいまで駆けつける等、随時対応している。医療機関受診時は、教職員の同行やポケットの貸し出し等、学生生活全般をサポートしている。また、本学園大学には複数の医師が勤務しており、本校にも看護師2名が専任教員として勤務しているため、常時相談できる体制を整えている。

進路相談については、個々の学生との面談を繰り返しながら希望校を選定し、オープンキャンパスへの参加準備や書類作成のサポート、入試対策を行った。結果、全学生進学希望校へ進学することができた。

学生寮は学校から自転車で10分程度の場所にあり、3DKで6人のシェアハウスになっている。家電・家具・WiFi等が完備されており、来日直後から入寮でき、学業修了まで利用することができる。また、2021年4月の介護福祉学科開設に向け、新たに大阪港へ寮を借り上げ、新入生の受け入れ体制を整えた。

保護者との連携については、開学以降幸い問題がおきていないため直接やり取りすることはなかったが、親代わりともいえる経費支弁者と連携をとりながら、学生サポートを行っている。万一、保護者と連絡を取る必要が出た場合は、英語、ベトナム語、ネパール語で対応できる環境は整っている。

卒業生支援体制については、卒後教育や転職相談体制等を今後構築していく予定である。

6.在留管理と生活指導（森川）

評価

27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	3
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

入国・在留管理について入国時の空港出迎えから在留カードの申請、更新等、遅延することなく適切に支援を行っていると考え。また、入国後の日本社会を理解するための支援として、入学時のオリエンテーションや個別面談等、定期的に日本の法律やルール、習慣について指導を行っている。

学生の状況や情報については、毎朝の挨拶運動や事務室窓口での学生への声かけや、年10回の個別相談時に学生に状況を確認し、最新情報を得たうえで、常時学生情報一覧、学内システムにて学内で共有、管理している。

7.学生の募集と受け入れ（森川）

評価

31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	4
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

学生受け入れ方針や募集活動については、学校の設置の目的にもあるように、「将来介護分野に就職を希望する外国人留学生に対し、介護福祉士養成教育につながる日本語教育を行うこと」を目的に、将来日本で介護福祉士として長く働きたい学生を受け入れている。

また、介護福祉学科の学生募集活動としては、内部推薦入試の他、外部の日本語学校、各国の日本語教育機関から学生を募る際、入学時のN2相当の準備をしておくこと、説明会では説明会資料および学生募集要項で明確に伝え募集を行った。

入学者選考については、日本語学科では書類選考、日本語筆記試験、面接試験の3つの合計点で公平に選考している。介護福祉学科では、書類選考、日本語筆記試験、面接試験の他、日本語能力試験結果や学校長推薦書等も考慮に入れ、合計点で公平に選考を行っている。

学生定員については、2021年5月現在、日本語学科100名の1クラス20名定員に沿った定員設定及び在籍者数となっている。また介護福祉学科は、1学年80名の2学年合計160名と定められており、1クラス40名定員設定及び在籍者数となっている。

8.財務（森川）

評価

36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
37	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3

<現状・具体的な取り組み/課題>

中長期的な学校の財務基盤は、安定を第一と考え、事業計画を作成している。ランゲージスクールにおいては、学費納付も分納者が多く、またコロナ渦の影響により来日が遅れている学生もいる中、期日を遵守する学生も多く徴収不能等は発生していない。また、法人全体の借入負債についても返済計画に沿って順調に返済をしている。

予算・収支計画については学校法人として財政規模は小規模であるが、均衡をはかれている。今後は学園外部環境の変化に対し収支均衡・収入増の状況を保つよう中期的な財政管理や予算管理が必要とされる。

会計監査については、適切な外部会計監査を定期的に行っている。

9.法令等の遵守（小山）

評価

40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

開校1年目から「自己点検」組織を構築、準備に努めるなど適正な運営に努めてきた。

学生に関する個人情報は、鍵のかかる書棚に保管し、必要な時に取り出し点検を行っている。

総括など、コロナ対策の影響で当初予定より遅くなったが、HP上に2021年6月には1年目の報告として挙げた。大阪出入国在留管理局が道路を隔てて50Mの距離にあるため、折に触れ各種の相談、報告を行っている。自己点検・自己評価結果についても、HP上公開している。

10.社会貢献（森川）

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

学校施設は、人材派遣会社や清掃会社の研修等、複数の企業に貸し出しを行った。今後も要望があれば、施設の貸し出しを行っていく予定である。

また、学生ボランティアはコロナ渦の影響により、予定が中止される等実施できていないが、東南アジア出身の学生が在籍しているため、この大阪ベイエリアや寮周辺でのボランティア活動に参加をしていきたい。

〈総括〉

2021年度より「ウェルランゲージスクール」と改名する本校のミッションは、「幅広い知識と専門技術を有し、社会人として必要なコミュニケーション能力や自律の精神を備えた介護福祉士を育てる」ことである。日本以外の国で生を受けた留学生が、本校で「日本語」「日本文化」を学び、来年から「介護」「福祉」それぞれの理念や技術を学んで、自らの人生・生活を切り開けるようにしたい。生涯役に立つ資格・技術を身に付け、まず日本社会での生活確立、社会貢献となる生き方を目指してもらいたい。いずれ帰国したとき、様々な形で、母国の高齢社会にも貢献できると信じている。発足3年目と歴史の浅い本校ではあるが、志高く学生を育てていく所存である。